

ITCのホール経営基幹システム「Compass」 業務の一元化で業務コストを削減 営業面ではバラエティ管理にAIを活用



新台導入の際に企業の各部門が行う業務フロー。各部門が適時に業務遂行できる

売上低下が深刻な中で、新規機種への入替や受動喫煙対策といったコストのかかる要因が次々に出てくる展開に加え、来年は消費税アップの話もあり、今後の事業環境はさらに厳しくなることが予想される。もちろん予算がなければ遊技機や設備の導入はおろか、売上アップにつなげるための還元もままならない。厳しい状況でも今ある経営資源で一定の営業利益を確保する必要があるわけだが、そのためには自店客の満足度を上げる予算計画を立て、それを着実に実践する「予算管理」がこれまで以上に重要になる。

そこでITCの「Compass」は、企業本部の各部署と店舗が行うすべての業務を一元化することで企業全体の最適化を図る経営基幹システム。各部署と店舗の業務効率化とシステムコストの削減を図りながら、しっかりと「予算管理」が継続的に見える仕組みを提供する。企業内のあらゆる情報を帳票や画面で可視化することで、データの二重入力などのムダが省けるほか、異なる部署間のデータ連携も含めたリアルタイムな情報の共有化によって見えにくい課題を容易に抽出でき、経営判断スピードも上げる。また、各部署に必要な機能や使用頻度、関連性などを踏まえ、導入企業ごとに特化した機能ボタンの再配置ができる「オリジナル業務フロー」を搭載し、継続して使わせる仕組みにも配慮している。

そもそも「Compass」はカスタマイズ性に優れ、導入企業の要望や業界事情の変化に合わせてバージョンアップで対応してきたため、搭載機能は多岐にわたる。最近では、営業力強化に向けた新機能として一般賞品管理業務・発注支援に関する機能も追加。あらゆるPOSに対応し、経営全店の一般賞品を一元管理することでロスなくす上に、画面上で簡単にウェブ発注できる仕組みも提供し、一般賞品部門の収益向上に役立つ。また、既に搭載されているパチスロの設定シミュレーション機能は自店サイトの台データ閲覧数（PV）の分析も加味した仕様の装備が可能。今後は新規から登場した設定付きパチンコへの対応に向け、「パチンコ版の設定シミュレーション機能」も追加される予定だ。

バラエティコーナーの強化に最適 新機能「AI最適配置」も実装

バラエティコーナーの予算管理は、多機種の個別台管理で手間がかかる割に、予算と実績の誤差が大きくなりがちだ。そこで「Compass」には、遊技台PPM分析などを用いて個別台管理の力を入れどころを明確にする「バラエティ管理」機能を搭載しており、バラエティコーナーの予算管理の精度向上に役立っていたが、このほど新機能としてAI（人工知能）による機種配置の分析機能

セルNo	納品日	単価	完済日	アウト	ア/売	機種	新台	ハイミドル	ミドル	ライトミドル	ライト	ミニマム
133						CR貞子3D WAB						
120	119					CRスーパー海物語IN沖縄3YSB						
118						CRデジハネ北斗の拳6慈母STD						
117						CRフィーバー宇宙戦艦ヤマトYR						
116						CRデジハネベルソナ4SG						
115						CR音一番〜こいこい八てありんす〜GL						
114						CR真北斗無双EW						
113						CR海物語3R						
112						CR織田信奈の野望GL						
111						CRフィーバーアークエリオンEVOL Y						
110						CRキャプテン翼UU-Y						
109						CRフィーバーパワフルDX						
108						CR地獄少女 式きくりの地獄祭りFPA						
107						CRスーパー海物語IN沖縄4SBB						
106						CRデジハネあしたのジョーSWJ						
105						CR地獄少女FPW						
104						CRエヴァンゲリオン9Y						

バラエティ管理の新機能「AI最適配置」

「Compass」に搭載される営業強化機能「バラエティ管理」では、設置台の台番、機種名に稼働や粗利などのデータも紐付け、マップ上で確認できる。遊技台PPM分析などを用いた得た機種管理や稼働の引き延ばしに役立つ各種施策が立てられるが、そこからさらに発展してAI（人工知能）によるバラエティコーナーの最適配置を導く「AI最適配置」を新機能として実装した。各設置台の稼働や粗利などのデータ、また台番パワーや組合わせパワーなど稼働に影響する独自の指標に加え、ITCの全国データ「CoSMS」の分析データも交えた膨大なパターン演算をAIが学習し、最も高い業績が期待できる最適な配置パターンを抽出して例示する。台番号をクリックすると、最適な配置パターンをウィンドウで表示する仕組みになっている。



鈴木一彦CCO

「AI最適配置」を実装した。この新機能は、遊技台PPM分析をさらに発展させ、AIのパターン学習からバラエティコーナーの最適な機種配置を導き出すという仕組み。各設置台の稼働をポイント化し、台番パワー（店内の設置場所による稼働の影響度）、組合わせパワー（隣り合わせた機種による稼働の影響度）といった独自の指標も紐付けた上で、同社の全国データ（CoSMS）による分析も加えながら、膨大な設置パターンの中から最適な配置パターンを抽出して例示し、その中から選択できるという機能だ。台移動した前後の稼働状況なども可視化できるようにしている。

市場が新規機種に完全移行するまでの間、来年以降は国内行事に伴う入替自粛も見込まれ、入替スケジュールがタイトになる中で機種運用も手探り状態にならざるをえない。そうした中で店内のバラエティ化がさらに進むことが予想されるが、「AI最適配置」は新規機種の育成といった面でも役立つはずだ。

一元化のための業務効率化を追求 いま話題の「RPA」の活用も視野に

業務の一元化を標榜する「Compass」では、扱う機能が多岐にわたる。

システムに入れるデータ量やアウトプットの作業量をさらに効率化するため、同社では、今話題になっている「RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）」の活用を視野に入れ、さらなる業務効率化に取り組んでいる。RPAとは、これまで人手で行っていた定型業務（事務処理や業務処理など）をソフトウェアロボットが代行して効率化を図るという次世代の取り組みで、従来の自動化ツールと違って業務時間外も含めてバックグラウンド環境で動作できるのが特徴だ。独立した1つの労働力として成立し、人を補充するかたちで業務遂行できることから、慢性的な人手不足の備えとしても注目を集めている。

「キーワードは、面倒くさいをなくす。データを入れる作業など自動化できるものは自動化して作業工数を削減する必要がある。定型作業は人によって異なるが、ログインしてボタンを押して画面表示といった動作も自動化できる。「Compass」はRPAとの親和性が高いため、今後はより良い使い方を提案していきたい」と話すのは、同社の鈴木一彦CCO。「Compass」から取り出したデータを自動配信したり、また競合店に関連するウェブサイトの巡回やデータの確認・蓄積などにも活用が見込めそうだ。